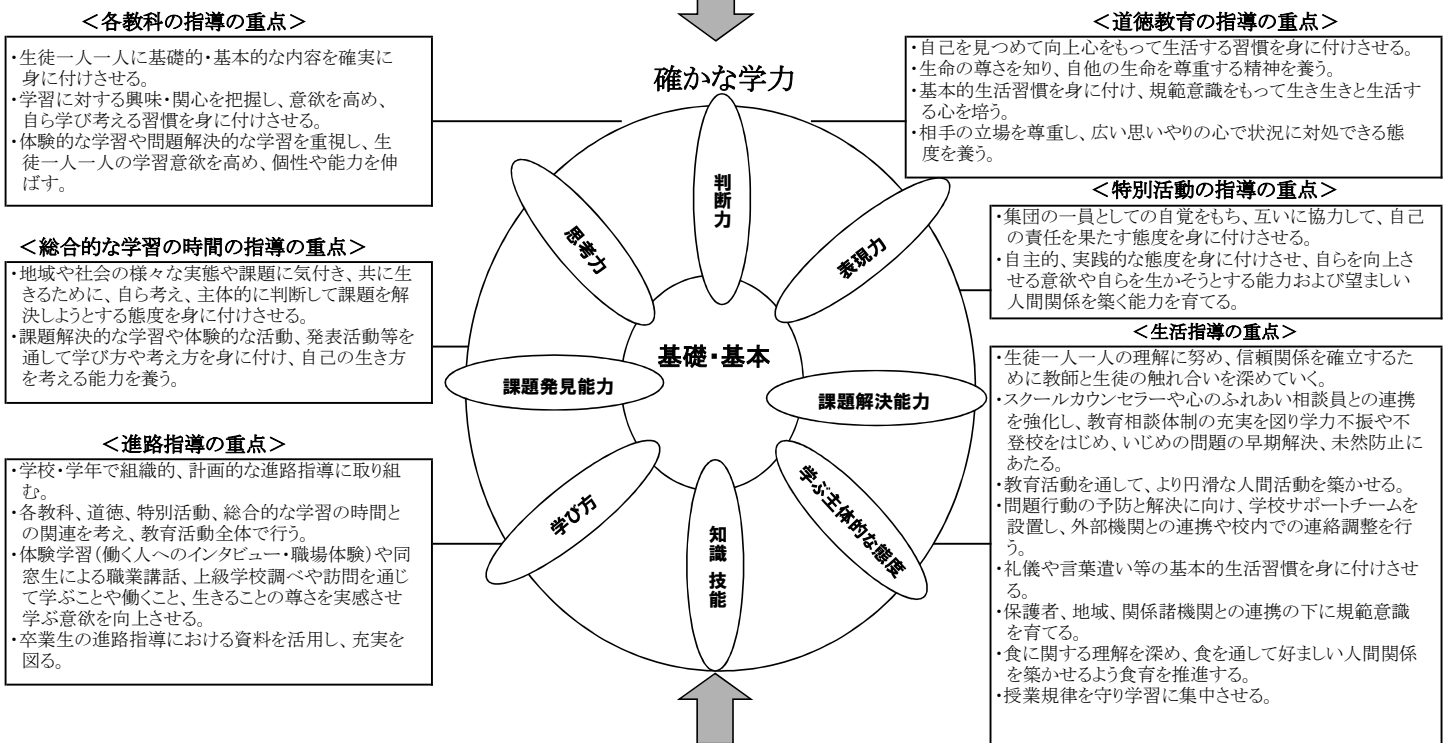
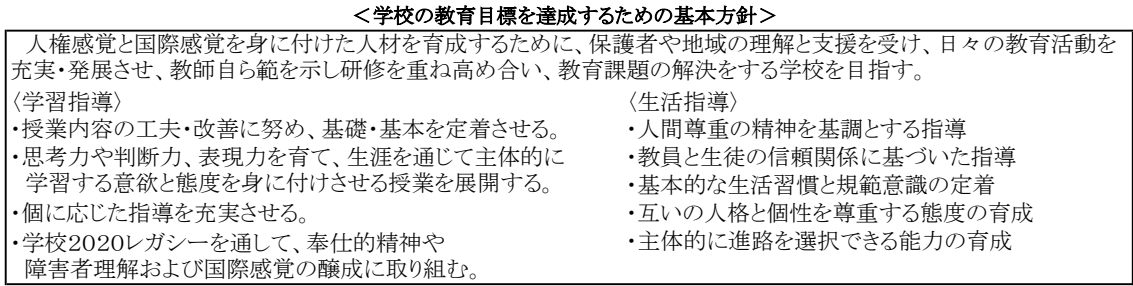
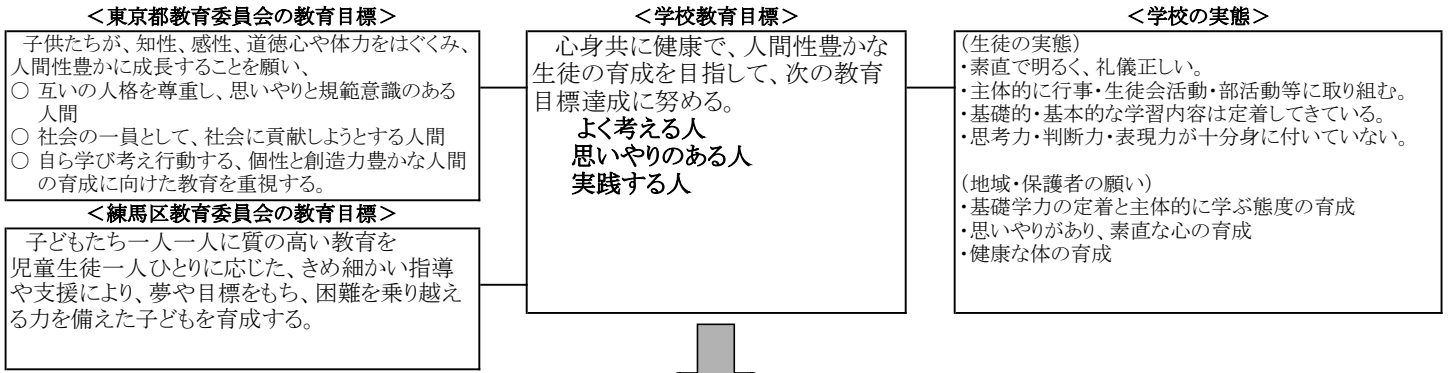


令和5年度 学力向上を図るための全体計画



<本校の授業改善に向けた視点と工夫>

教育課程編成	校内の研究や研修	評価活動	家庭や地域との連携	小中一貫教育の視点
<ul style="list-style-type: none"> ・個別指導、グループ別指導など指導方法の工夫改善を図り、学力補充教室の実施により基礎的・基本的内容を確実に身に付けさせる。 ・生徒の主体的な学校生活への取組を重視する。 ・体験的な活動、課題解決的な学習活動を重視する。 ・貫井図書館と連携し学校図書館を活用した読書活動を推進する。 ・数学および英語で習熟度別少人数指導を行い、個に応じた学習を展開する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒理解を深め、個に応じた指導の充実を図る。 ・各教科での教員相互の授業研究や研究授業を通して、授業改善を図る。 ・教員の特別支援教育に関する理解を深め、適切な支援を行う。 ・学習指導要領を踏まえた研究や研修の充実を図る。 ・校内研究テーマを、「自らの考えを伝え合える生徒の育成」～対話的指導の工夫～とする。 ・各教科で「学校レガシー2020」の取り組みを推進し、体力向上・健康保持増進とともに、日本の伝統文化の理解、奉仕的精神や国際感覚の醸成、障がい者理解を図り、心身ともに調和のとれた人材を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科において、3観点の評価について年間を通して計画的な見取りを行い、適切な評価・評定を行う。 ・道徳において、年間を通して学習計画し、活動を通して道徳性に係る自己の成長を見取り評価する。 ・総合的な学習の時間において、3年間を通した学習計画に基づいて、評価の観点や評価基準を設定し、学習状況を適切に評価する。 ・評価規程を明確にし、指導と評価の一体化を図り、肯定的な評価の工夫を行うことで生徒の学習意欲を高める。 ・生徒による授業評価アンケートを実施し、授業改善に生かす。 ・適切な評価・評定の改善を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者と連携して、家庭学習の習慣を身に付けさせる。 ・地域の教育力を取り入れた授業を積極的に実施する。 ・保護者による学校評価アンケートを実施し学校運営や授業改善に生かす。 ・職場体験学習を地域の多くの事業所等との連携により推進する。 ・学校地域連携事業により、夏季学力補充教室、定期考査前の学習教室等を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・連携小学校との連絡協議会を活性化させ、生徒の情報交換を密にする。 ・小学校での学習内容を踏まえ、中学校の学習内容のオリエンテーションをしながらスムーズに授業を受けられるようにする。 ・職場体験学習では連携小学校も体験場所の一つとして交流を図る。 ・小学生に部活動体験や見学、校内見学等の機会を作り、連携を深める。 ・各教科グループにより課題共有シートを作成し、小中で連携した指導を実践する。

<授業改善策の検証方法>

・授業改善のねらいの達成度や手だての効果を、生徒の学習状況の分析、評価及び授業アンケート、学力調査等から検証し、次の改善策を修正する。